



rTMS 治療（反復経頭蓋磁気刺激治療）のご案内

浅香山病院では 2020 年 1 月より、rTMS 治療（反復経頭蓋磁気刺激治療）の保険診療を行っています。rTMS 治療はうつ病の新しい治療法で、日本では 2019 年 6 月より、実施条件を満たした一部の病院でのみ保険診療が認められました。適応範囲はまだ限られていますが、抗うつ薬治療で効果が十分でない方に、この治療をお勧めします。ご希望の方はぜひ一度ご相談下さい。

お問い合わせ先：浅香山病院 精神科医療連携室 TEL：072-229-4882（病院代表）



rTMS 治療でなぜうつ病が治るのか

近年の研究により、うつ病は心の病ではなく、脳の疾患であることが解明されてきています。コイルに電流を瞬間的に流してパルス磁場をつくり、それによって脳内に電流を誘導して神経細胞を刺激します。うつ病では左の前頭前野の機能が低下しているため脳深部の情動や自律神経を司る部位が暴走していると考えられています。そこで磁気刺激で前頭前野の機能を回復することで、うつ病が改善すると考えられています。

電気けいれん治療 ECT との違い

うつ症状が重症な方、たとえば精神病症状、緊張病症状、切迫した希死年慮がある方や速やかな改善が必要な身体的・精神的状態の方には ECT を優先します。当院でも ECT を行っていますのでご相談ください。

適応となる方

1. 中等度以上のうつ病であること
2. 抗うつ薬による十分な薬物治療によっても、期待される効果が認められない方
3. 18 歳以上

うつ病でも、現在中等度以上でない方、抗うつ薬治療を受けたことがない方、双極性障害の方などは適応になりません。※詳しくは P 2 をご参照ください

治療までの流れ

第一段階は書類による判定です。①医療情報提供書（主治医作成）と②「事前問診票」（こちらから Fax でお送りしますのでご自身でわかる範囲でご回答ください）をご郵送ください。

適応の可能性のある方はご予約の上、診察させていただきます。

第二段階は診察です。詳しい問診、心理検査、MRI、脳波などを行います。複数回の来院が必要になります。

治療期間・治療の流れ

1 日約 60 分を週 5 日、6 週間続けます。入院治療となります。

治療開始 3 週目で治療効果の中間判定をし、①治療効果がない方は治療終了、②治療効果がある方はさらに 3 週間の継続、③寛解（回復）しておられる方は中止となります。



効果

薬と同程度の中等度の効果があります（効果量 0.39-0.55）。

重症度が半分程度になる方は 3 割（反応率）

症状がほぼなくなる方は 3-4 割（寛解率）

再発は 1-3 割（治療後 6-12 ヶ月）

当院の実績

2023年11月までに合計37名の方を治療しました。そのうち20名（54%）の方が寛解（症状がほぼなくなった状態）で、退院されました。37名のうち男性は18名、女性が19名、年齢は23歳から81歳でした。

副作用

従来の薬物治療・電気けいれん療法（ECT）に比べ、副作用が少なく、安全性が高いことが特徴です。

①多い副作用は、刺激中の頭皮痛などです

②けいれん発作（0.1%未満）

治療の適応とならない方

人工内耳、脳内の磁性体クリップ、心臓ペースメーカーを有する方

適応となるか慎重な検討が必要な方

刺激部位に近接しないものの、金属（インプラントなど）を有する方

てんかん・けいれん発作の既往やリスクのある方

けいれん発作の閾値を低下させる薬物を服用の方（三環系抗うつ薬、マプロチリン、テオフィリン、メチルフェニデート、ケタミン、クロザピン、ゾテピンなど）

アルコール・カフェイン・覚せい剤の乱用・離脱時の方

妊娠中、重篤な身体疾患を合併する方など

うつ状態でも適応とならない方

現在中等度以上でない方

抗うつ薬治療を受けたことがない方

抗うつ薬の服用が不規則な方

双極性障害の方

電気けいれん療法を優先すべき方

今回のうつ病エピソードにおいて、すでに rTMS 治療を受けたことがある方

認知症や器質性・症状性の気分障害の方

アルコールや向精神薬などによるうつ状態の方など



r TMS 治療について詳しい話をお聞きになりたい方は、ぜひ一度ご相談下さい。

お問合せ先：浅香山病院 精神科医療連携室 TEL：072-229-4882（病院代表）